

十一月の衛生

醫學博士 齋藤文雄

□小屋つゞき垣根垣根の黄菊かな

この頃の小春日和の暖さは何物にも換へ難い有難さです。さういへば流石に朝夕は露もしとどに、蟋蟀の聲も聞かれなくなつて参りました。皆さんの御子さんも定めし身も心も張りきつてゐることでせう。皆な硬肥りに肥つて、つまむと弾ね反す位にピチピチしてなりませう。今月も病氣の事等餘り問題にならない時季ですが、そろそろ冬に向ひますので、その注意を書いて見ませう。

□うがひの練習は出来てゐますか。外に出れば埃り風が吹く、段々寒くなれば家の中に閉ぢ籠りがちになる、といふ様な事から、子供はうがひが上手でなければなりません。硼酸等只今中々手に入りませんから、お番茶の薄いのでうがひをさせれば、それで結構でせう。

□寒くなればなる程、日に當る事が必要

です。何時でも外で遊ぶやうに癖をつけませう。曇つてなつても外で遊べば、いい空気を吸ふ事も出来ますし、外氣浴も出来ます。

□結核の事は餘り書きませんでした。が、今月は皆な健康な時ですから、この機会に取扱つておき度いと思ひます。

□先づ第一に御承知おき戴きたい事は結核菌が身體に入つたといふ事と、結核の病氣といふ事は違ふといふ事です。身體の中に結核菌が飛びこんでも、それだけでは病氣とはいへないのです。身體が丈夫ですと何時とび込んだか判らずにゐます。それが何かの機会に發病する、それが結核性の病氣です。ですからツベルクリンの反應が陽性に出ても、それは決して病氣だとはいへません。既に結核菌が身體に入つてゐるといふ事が判る丈けで、現在結核の病氣かどうかといふ事は他の事も一緒に考へて判断するのです。

これを間違はぬ様にいたしませう。たゞ子供が小さい時はこの感染と發病が非常に近いといふ事はいへます。

□肺門淋巴腺の結核といふ事は聽診器で聞いた位では細かい事は判りません。一寸診て戴いたらさういはれたからと氣に病む方がありますが、それは早計です。

先づ第一に反應が出るか出ないか、これが問題なので、それが反應を見て貰ふ事です。若し陽性ならば、次に又線の寫眞を撮つて細かに檢べて戴く事です。今日は反應と寫眞と臨牀上の所見と、この三つが揃はなければ、簡單に肺門淋巴腺の結核であるといふ様な事は申せないので、尤も程度のひどいものは別問題です。

□結核性の子供に日光浴をする時は氣をつけなければなりません。少なくとも病氣が未だ活動してゐる間は、日光浴は却つて病氣を悪くする事がありませんから、若し行ひます時はお醫者さんに相談してからにいたしませう。

□やがて木枯が吹いて、早い地方は雪も見られませう。冬でも子供は積極的に大人の消極的な考へから、子供の發育を妨げない様にしたいものです。